

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばの教室ことのは4号館		
○保護者評価実施期間	令和8年2月5日	～	令和8年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 54
○従業者評価実施期間	令和8年2月5日	～	令和8年3月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士をはじめ作業療法士・理学療法士・保育士・児童指導員と他職種が在籍し総合的な支援を行っている。	「言葉発達支援」の療育を特徴とする事業所運営の中で、感覚統合の観点からセラピストが「土台となる身体づくり」へのアプローチをし、保育士や児童指導員が児童同士のやり取りの練習など丁寧に個別で関わるなかで「社会性を育む」といった総合的な支援が行える様に情報共有を行い日々対応している。	・職員間の情報共有や現場での連携がしやすいよう児童の目標設定や各職種の目的の明確化を図る。 ・日頃から情報共有の場(昼礼・終礼)で発言していく。 ・多角的な支援を行う事ができる様に担当する児童を固定せず全ての職員にて支援を行う。
2	職員を多く配置する事で児童に寄り添った支援が行える。	言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、保育士、児童指導員等経験豊富な職員を配置し、相互に連携し児童が成長できる環境を心がけている。	・充実した職員配置を活かして季節ごとの行事やイベント参加を積極的に行っていく。 ・児童の意向に沿った好きな遊びを提供しつつ、プログラムが固定化しないよう遊びの幅や社会性を広げるために多角的な視点で活動プログラムを設定し提供する事で支援の拡充を図っていきたい。
3	保護者の相談を受け、助言をしたり申し送り時に丁寧な活動報告を行っている。	活動の状況が伝わりやすい表現や児童の成長した面を伝えることを意識し、対面又はメッセージアプリを活用し申し送りを行っている。保護者からの質問や相談があった際は職員間で共有や話し合いをして助言を行うようにしている。	・引き続き丁寧な申し送り対応を職員一同心がけていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の学童クラブとの交流が少ない。	言葉でのコミュニケーションが苦手な児童が多い為、交流会等の行事へ参加が難しい。	近隣の公園や児童館でのイベント参加を行う際には、地域児童と交流ができる様支援を心がける。地域の福祉祭りや児童館祭りへの参加を積極的に行っていく。
2	保護者よりホームページ活用が少なく感じると声が挙がった。また「ホームページ発信がされているか」に対しアンケート結果で「わからない」に回答が多かった(全体の40.7%)。	避難訓練や広報、感染症、行事の活動報告、保護者会の開催などを事業所内に紙面で掲示しお伝えしているが、法人内ホームページのブログはおろそかになっている現状がある。	定期的にブログ掲載が出来るよう努めていく、またブログを掲載した際には事業所内の広報にてお知らせしていく。
3	療育スペース外でのスペース(教材管理)が狭いと感じる声が職員から挙がった。	療育スペースは施設基準を満たしているが、教材が多いこともあり圧迫感がある。スタッフから「必要な時すぐ使用できるようにしたい」と意見があった。	整理整頓しスペースの確保と環境美化に努めていきたい。